名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

Campus Planning and Management Office
+
Facilities Management Department

KAZUHISA TSUNEKAWA

公共施設のあり方と市役所の位置付け

長久手市
第1回市役所等公共施設整備
ワークショップ
2018. 03.11

名古屋大学
恒川 和久

1 長久手市における公共施設の現況

2 公共施設のあり方検討市民ワーキングの結果

3 市役所等公共施設整備ワークショップへの期待

Chapter 1

長久手市における公共施設の現況

いまも全国有数の人口増加が続く長久手市

公共施設更新問題とは無縁なのでしょうか？

1 公共施設に関わる３つの問題

１．施設の急速な老朽化

公共施設の多くは、都市化の進展とともに、国の施策方針等にしたがって集中的に整備されてきた。これらのストックを一斉に更新する時期が迫っている。

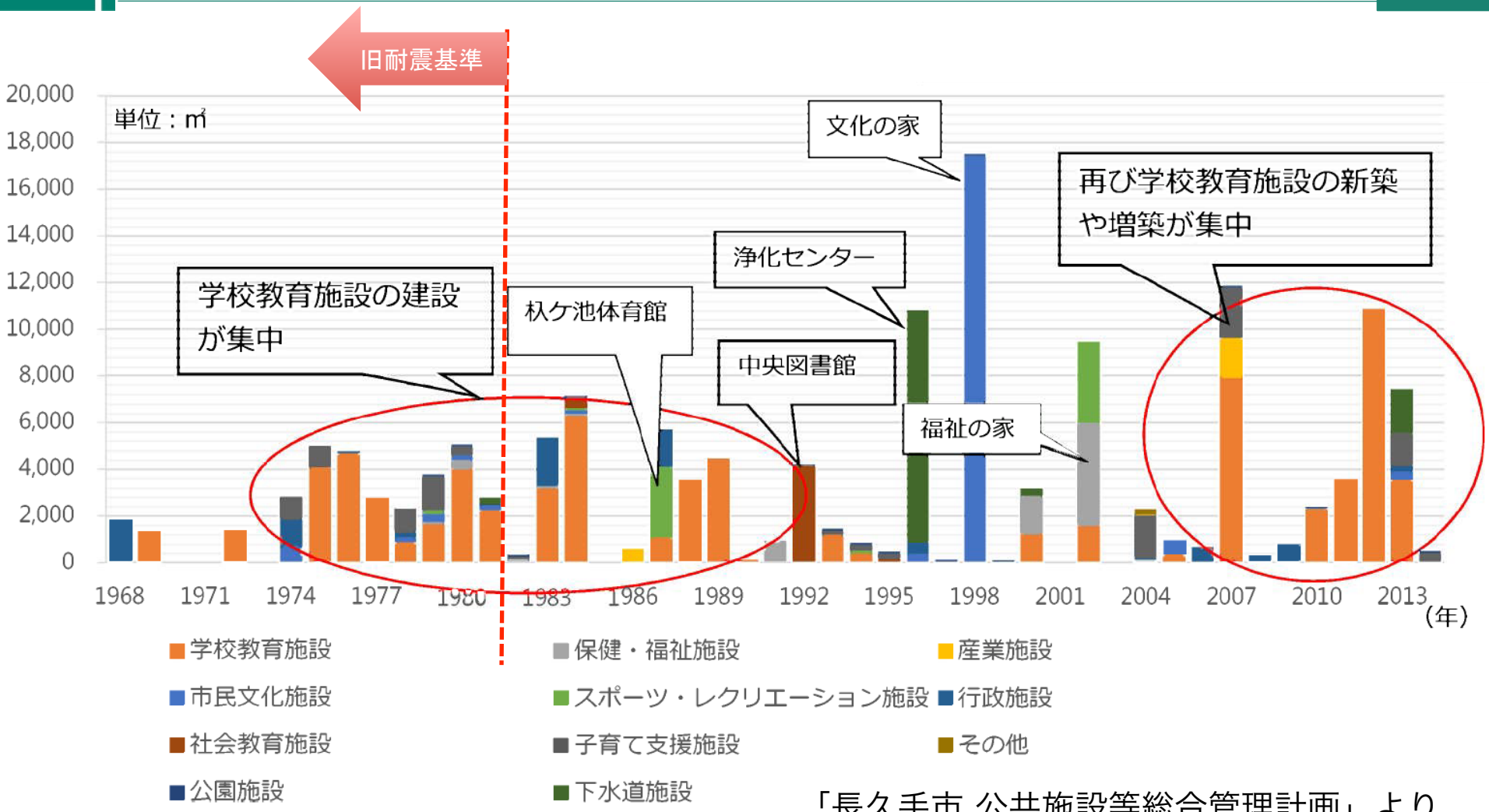
２．人口の減少と少子化・高齢化

人口減少、少子化・高齢化が進み、住民のライフスタイルの変化とともに、公共サービスのあり方が問われている。

３．厳しい財政状況

生産年齢人口の減少や、扶助費の増加等により、自治体の財政状況は厳しさを増し、必要性の高い公共施設まで良好な状態で保てなくなる恐れがある。

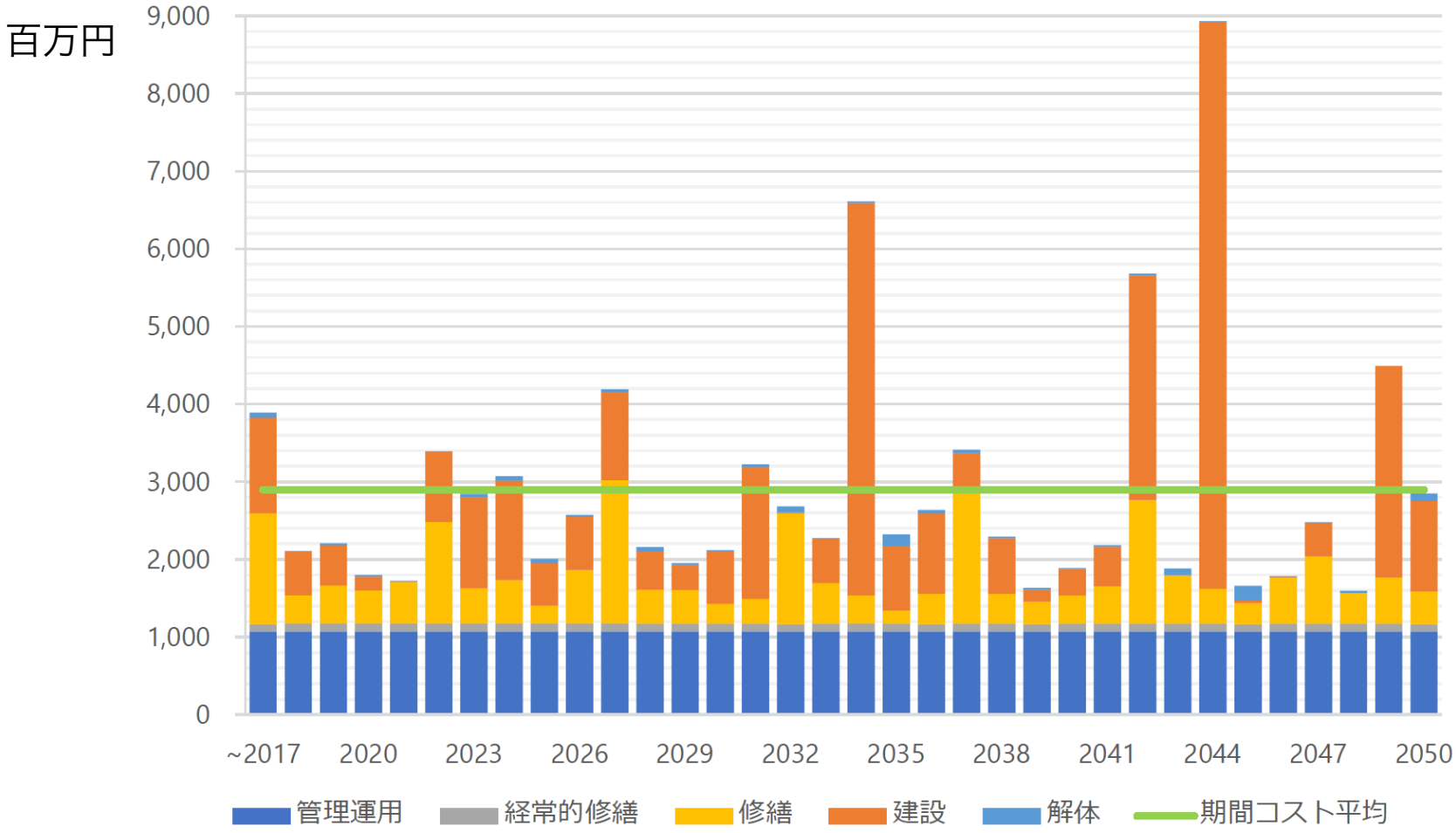
1 長久手市の年代別公共施設面積



「長久手市 公共施設等総合管理計画」より

建設後35年以上経過した旧耐震基準の施設が22%を占める
愛知県内の自治体ではもっとも古い施設の比率が低い

1 公共施設にかかるライフサイクルコストの試算



「長久手市 公共施設等総合管理計画」より

現在ある建築物だけで、

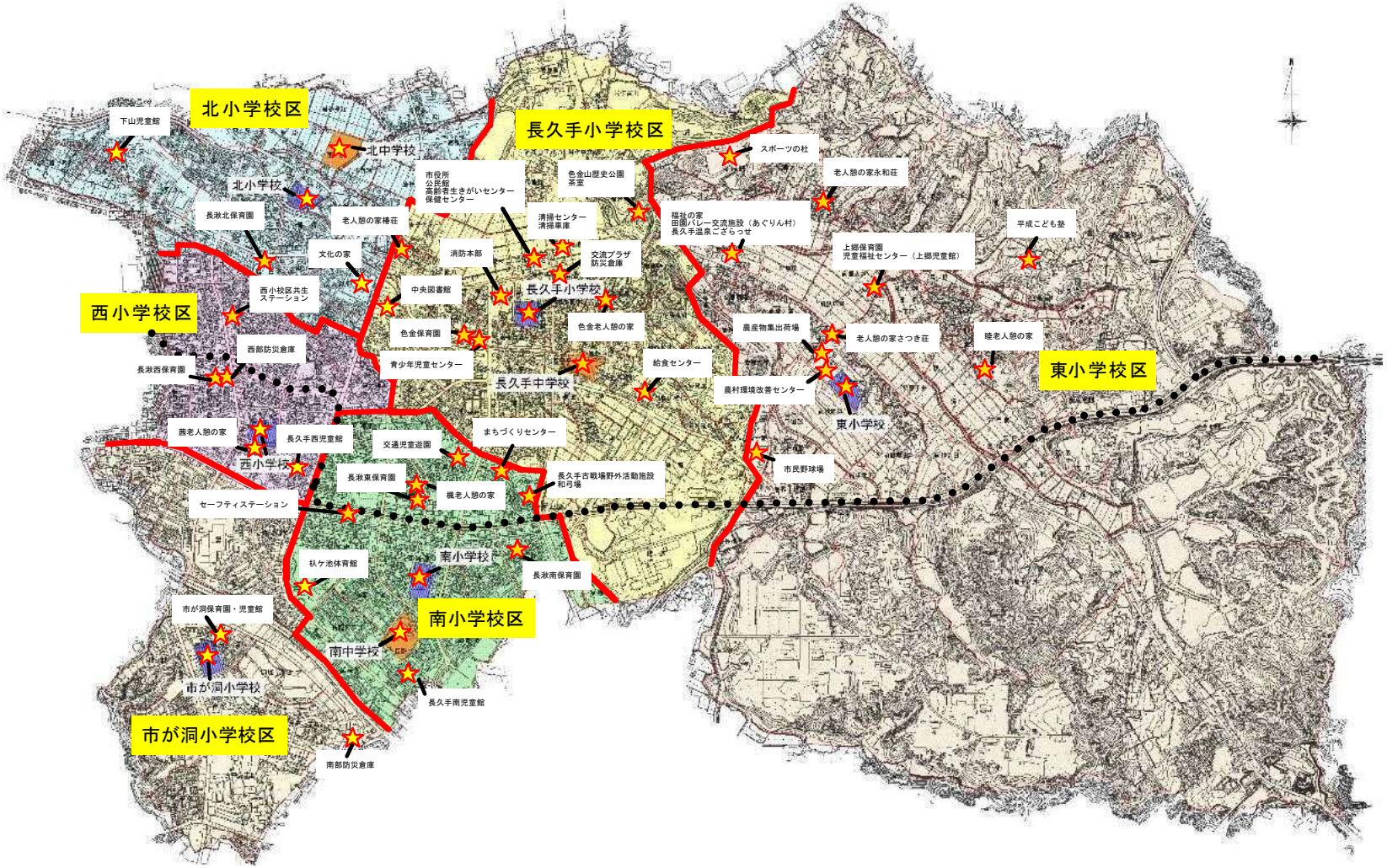
年平均約29億円の費用がかかる（うち約10億円が更新費）

投資的経費等予算が縮小する中、すべてを維持するのは困難

2 公共施設マネジメントの目標

公共施設マネジメント（FM）とは、
組織の目的達成のために、公共施設すべてを経営資源として
① 経済的なコストで、
② 良好な品質(環境)を、
③ 最小必要なものを、
長期にわたり提供すること

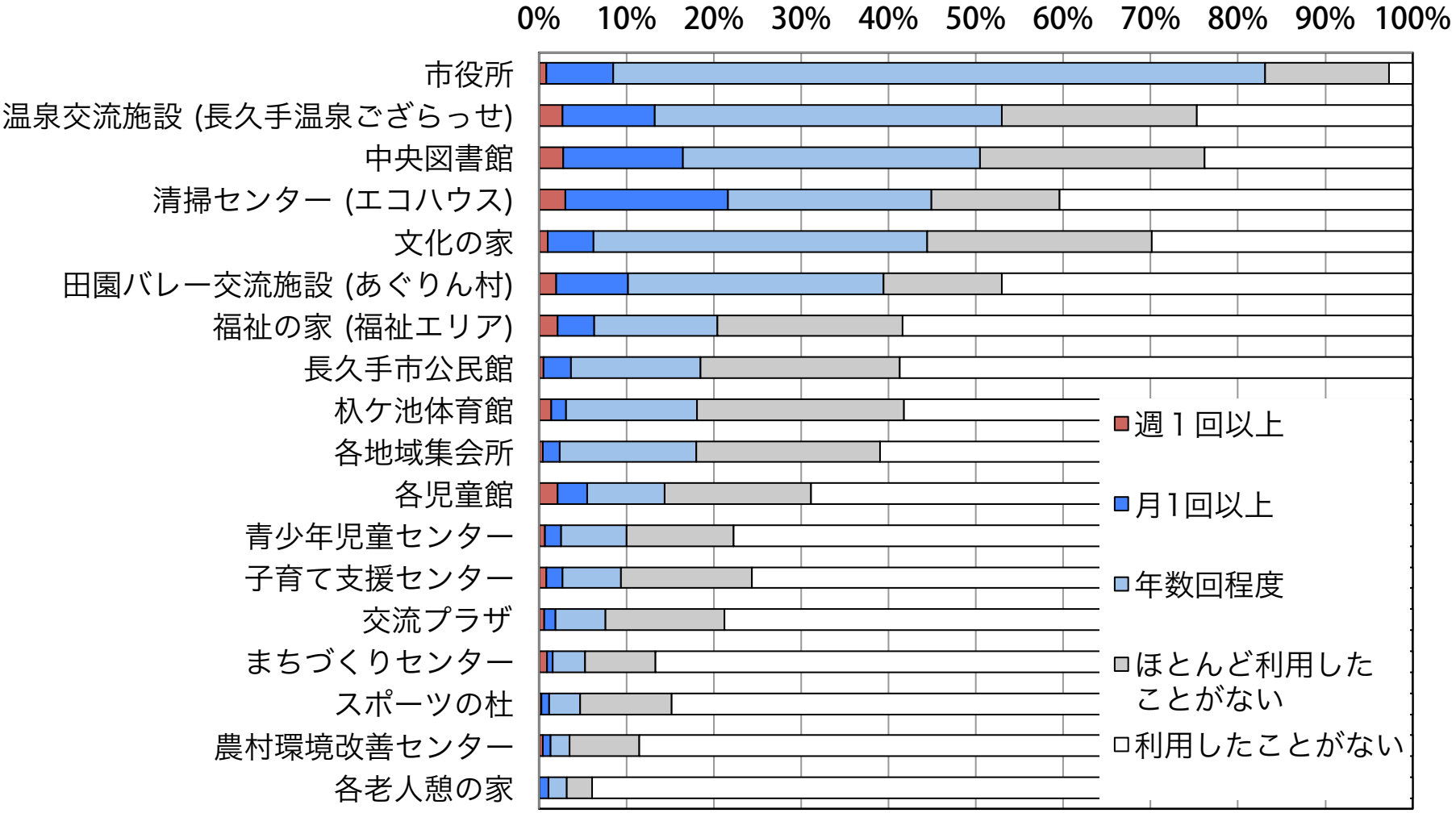
1 公共公益施設立地状況



小学校区ごとにバランスのよい配置？
都市計画・まちづくりとの整合は？

1 公共施設の利用実態

Q.あなたは長久手市の公共施設をどれくらい利用していますか？



「長久手市 公共施設等総合管理計画 資料編」より一部抜粋

公共施設の利用率は総じて低い。市役所は利用者は最も多い。

1 長久手市における公共施設の特徴

- 人口･人口密度からみて、**一人あたり公共施設保有量は県内平均レベル**
- 人口増加に合わせて施設が建設されてきたが、**老朽度はほかの自治体に比べて低い**
- 今後も人口は増加傾向にあり、**施設需要は高まり、今後も市役所等施設の整備も想定される**
- リニモ沿線や主要道沿線には公共施設が少ない
- 公園、博物館、大学、大型商業施設など、**社会資本の充実度はきわめて高い**

→市役所も公共施設のひとつ。整備も運営も税金で賄われる

市全体の施設やサービスのあり方の一環として考えるべき

Chapter 2

公共施設のあり方検討
市民ワーキングの結果

2017年8月～11月に開催した5回のWGで

公共施設のあり方について市民の声をまとめました

2 公共施設等の総合的な管理に関する基本方針

基本方針1	誰もが安全で安心して使用できる公共施設等を目指します。

耐震化や、老朽化対応、バリアフリー化の推進等により、誰もが安全で安心して使用できる公共施設等を目指します。

基本方針2	公共施設の更新時に機能の複合化を前提に検討するとともに、公民連携の促進や、広域連携などにより、トータルコストを縮減します。

長期間のライフサイクルコストを考慮した施設の維持管理を行うとともに、公共施設の更新時に機能の必要性を勘案のうえ、複合化を前提に検討するほか、公民連携等による施設管理、広域連携による施設運用を行うなど、新たな手法を検討することにより、トータルコストの縮減を目指します。

基本方針3	将来計画に基づき、財政負担を平準化し、計画的に基金を積み立てます。

公共施設等の将来にわたる更新等に必要とされる金額を推計し、長寿命化等により財政負担を平準化するとともに、財源不足が生じないよう、基金の積立てや起債の発行などを計画的に行います。

2 公共施設のあり方検討市民ワーキングの流れ

第1回（8月26日）
現状に関する情報共有

第2回（9月24日）
現場の確認

第3回（10月14日）
課題の抽出

第4回（11月11日）
課題に対する提案

第5回
総まとめ（結論）

★公共施設の観点から見た長久手市の特徴

「旧住民は、繋がり、伝統も多く残るまちとも言えるが、新住民が多く、繋がりが総じて希薄。」
「若者が多く活気があり、学童、放課後児童クラブ、児童館など子育て施設の充実を図っている。」
「通学路など歩道が狭く、商業施設ができてから交通渋滞も発生しており、道路の整備も課題。」
「文化の家、福祉の家、図書館など、立派な公共施設がある。」

「公園もたくさんあって、緑が多いまち。」
「商業施設もたくさんあり、20分以内の移動で生活ができる、住みやすいまち。」
「地域でのまとまりが薄く、集まろうにも参加者が少ない。」
「車社会で、歩いて移動するには限界がある。」
「近年急速に商業施設など乱開発が進んでいてなんだか心配だ。」

「名古屋市に近くて便利。」
「モリコロパーク、文化の家、博物館、古戦場、ござらっせなど遊べる場所がたくさんある。」
「子供の声が聞こえ、未来を感じるまち」
「市役所の人がフレンドリー。」
「大きすぎる文化の家が負担にならないか心配！」
「集会所が使いづらい！」

★公共施設の現場を見て気づいたことなど

★長年住んでいるが初めて訪れる施設もあった。昔から知っている施設もずいぶん古くなったという印象も。

★小規模施設は利用率が低く、規模が大きい施設は一定の利用率があるようだ。

★施設の整備に当たっては財源の問題も考えなくてはならないだろうから、公共でなく民間にできるものは民間に任せたり、ある程度集約化を図っていくことも重要だ。

★集会所は地域の担当者が鍵の管理をしているようなのでいつでも入れる訳ではなく、使い勝手に課題がある。

★今日回った中でもたくさんの集会施設があった。集会所はいつもは空いていないし大人数で集まるには狭く、駐車場もあまりない。老人憩の家はシニアの方しか利用できない。共生ステーションやまちづくりセンターのような施設のほうが、利便性が高そう。

★施設は点在しているよりも、集中していたほうが管理の面でも効率的。

★できるだけ新しい施設を作るのではなくリノベーションを。その際は、環境負荷に配慮し、CO2削減を。

★アクセスの点を考えれば、公共施設は一定の駐車場を確保するか、または、リニモなどの駅周辺に設置されるのが望ましい。

★これからは、民間にはできない真に公共が担うべき機能を考える必要がある。

★人口減少を見据え、施設を余計に作りすぎず、今あるものを有効活用すべき。

★全ての公共施設の空き状況を一括して検索、予約などできるような仕組みがあれば、利用率も上がるかも。

第3回 公共施設のあり方検討 市民ワーキングが開催されました

2017年10月14日(土)13:30～16:30 【参加：１８　人】

★ 公共施設の種類ごとにみんなで課題を抽出しました

公共施設の老朽化が全国的に問題となっています。長久手市では、今後各個別の施設の維持・更新などを考えていく上で、その基本的な考え方を示した「**公共施設等総合管理計画**」を、**市民の意見も踏まえて更新**していく取組みを進めているところです。

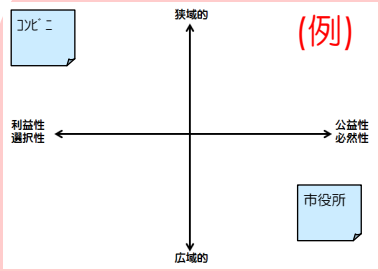
第１回は公共施設を取り巻く現状など市からの説明を受け、第２回は実際に市内の様々な公共施設の現場を巡りました。

《プログラム》

あいさつ	13:30
これまでの振り返り	13:35
グループワーク①	14:00
『性質別施設の分類』	
グループワーク②	15:10
『優先検討事項の抽出』	
結果発表	16:15

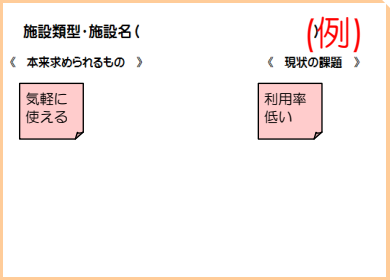
今回は、市職員からのこれまでのワーキングの振り返りのあと、**様々な公共施設等を「性質別」に分類**し、それぞれの施設に関して「**本来求められるもの**」、「**現状の課題**」は何なのか等を話し合ったので、その結果をお伝えします。

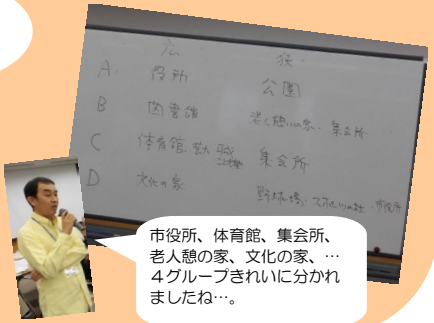
★ グループワーク①・②



グループワーク①（公共施設分類）
みんなで思いつく民間・公共あらゆる施設の名前をふせんに書き、左の図のマップに貼っていく。
　左端に近い…利益性・選択制があり、誰でもというよりは一部の人が利用するような施設
　右側に近い…公益性・必然性があり、公共として持つべき施設
　上側に近い…校区・自治会単位など狭い地域での利用が想定される施設
　下側に近い…市全域・近隣市など広い地域での利用が想定される施設

グループワーク②（優先検討事項の抽出）
グループワーク①で作成したマップの右上の領域から１つ、右下の領域から１つ、議論したい施設を選んで、その施設に「本来求められるもの」と「現状の課題」を洗い出す。





第３回市民ワーキング　検討結果

グループ	広域的な施設		狭域的な施設	
	本来求められるもの	現状の課題	本来求められるもの	現状の課題
A	**市役所**		**街区公園**	
	戸籍、税、健康保険などの窓口業務	今後の少子高齢人口減少減収社会を見据えた自治体の将来像	いつでも気軽に使える	騒音
	建物が頑丈であること	市役所業務が肥大化している	体を動かす（含スポーツ）（含高齢者）	雑草
	住民の安心安全	縦割り行政で、横の連携が弱い	美観（水場、芝生、花、緑）	駐車場が足りない
	職務を遂行する人材	各種サービスのワンストップ化（利便性向上）	地域交流・つながり	高齢者にとっては、家からすぐ近くにあるとよい
	自治体行政への市民参加の促進	市民と職員、市民同士の話し合いの場所	安全に使える	あまり儲かっていない気がする
	雇用の創出	地区（小学校区）ごとに特色があり、課題がある	マルシェなんかもできるといい	全面芝生にしてもいいかも
	自治体行政の市民への移行	市役所支所の設置＝小学校区単位での問題解決、住民参加・職員雇用の増加	多様性	
B	**図書館**		**老人憩の家・集会所**	
	本の貸し借り	市の図書館をほとんど利用したことがない	歩いて行ける	鍵がかかっていて、使い勝手が悪い
	文化的にリードする存在	飲食スペースの充実	老若男女誰でも使える	管理や許可の主体が分かりづらい
	歴史的文献の保存	駐車場が足りない	気軽にいつでも使える	バリアフリーが不十分
	勉強する場所	移動図書館があってもいい	多様性	駐車場が足りない
	アクセスのよさ	本が貸えてもいい	活気のある場所	一部の人しか利用していない（憩の家は、高齢者専用）
	くつろげる空間	民間に運営をまかせてもいいかも	市役所の窓口機能があってもいい	老人憩の家や集会所を統合して、使いやすくしてもよいのではないか
C	**私ケ池体育館**		**集会所**	
	市民の健康増進・体力向上	今後数十年維持可能性	交流の場	維持管理の負担（草刈りなど）
	交流の場	公園全体を利用したイベントの充実（マルシェなど）	比較的家の近くにある	一部の人しか利用していない（若い人の利用が少ない）
	スポーツの振興	駐車場が足りない	会議する場所	使い方が分からない
	気軽に使える	体験施設やプールがない	勉強する場所	何のために使う施設か分かりづらい
	安価な利用料	運動器具の更新	避難訓練の場所	計画的な修理、保全の必要性
	休憩施設の充実	古い	子育て中のお母さんも使える場所	もっと気軽に使えるとよい（鍵の管理等）
	避難所としての機能	規模が小さい	子供だけでも使える場所	地域格差（施設がないところもある）
		予約がとりづらい	ワークショップ会場としても使える場所	他の施設で代用できないか
	県立芸術大学			
	芸術振興	施設の老朽化		
	人材育成	市民への開放		
	地域に開かれた学校（学校祭、市民講座等）	市民にとって何をやっているか分かりづらい		
D	**文化の家**		**野球場・スポーツの杜**	
	市民が文化活動を行う場（練習・発表）	利用料金が高いかも	スポーツをする場	予約がいっぱいでなかなか利用できない
	市民が文化芸術を楽しむ場（鑑賞）	維持コストが高そう	スポーツを見る場	空いているとき予約なしでも利用できないか
	市の文化行政発信の場	市民全体というより、一部（プロ）の利用が多い	市民が気軽に体を動かす場	立地的に交通の便が悪い
	市の顔（式典会場などにも使用できる）	予約がいっぱいでなかなか利用できない	交流の場	設備の充実
	避難所としての機能	ホールの構造が高齢者向きでない（バリアフリーに課題）	いつでも使える場所	汎用性がない（野球等に限定）
		他の自治体よりホールの規模が小さい（1000人以上収容可能なところも）	イベント会場としてもよい	近隣市町との相互利用を考えてもよいのでは

→　第３回意見を要素を抽出し、第４回では４テーマごとに検討

第４回市民ワーキング　検討結果

★みなさんで、市民が考える公共施設の基本方針案を作成してみました。

基本方針１	【広域・狭域で考える市の拠点】
・市全体の拠点から地域の拠点へ　ー市民中心の将来の拠点づくりー	
・現在の市役所の広域拠点化による長久手の中心部形成	
基本方針２	【アクセス・立地】
・近場の施設の共用	
・広域施設は公共交通、狭域施設は徒歩圏内	
基本方針３	【施設の有効利用（利便性・効率性・多様性）】
・知って・見て・使う	
・その施設は、その使い方で合ってる？	
・小規模多機能な集会所にする	
基本方針４	【老朽化・庁外連携】
・必要な施設は建て替え、他で使える施設は一緒に使おう	
・杁ケ池体育館の杁ケ池公園と一体化した整備	
・既存施設をテナント化、行政機能を民間施設へ	

2 公共施設に関する提言（ワーキングのまとめ）-1

1 「市の顔」となるような魅力ある拠点の整備

今後更新が見込まれる市役所を始めとした大きな施設の整備にあたっては、単に必要な機能を考えるだけでなく、市民のいこいの場、交流の場となるような空間づくりに配慮し、市民も職員も誇れるような「市の顔」とも言える魅力ある拠点として整備する。
そして、それを交通や商業の中心と繋げることで、長久手市の中心を作る。また、文化の家や福祉の家など、既存の大きな施設について、今後もその魅力が市の枠を超えて最大限に発揮されるよう活用する。

公共施設に関する提言（ワーキングのまとめ）-2

2　誰もがふらっと立ち寄り、フラットに使える施設の整備

利用者の性別や年齢、施設の用途などの制限を取り払い、フラットにすることで、それぞれの地域に今ある小学校区単位での共生ステーションや字名単位での集会所、児童館、老人憩の家といった拠点の機能や立地を整理し、市民の誰もが自由気軽にふらっと集まることができる小規模多機能な地域拠点を整備する。

公共施設に関する提言（ワーキングのまとめ）-3

3　使い勝手の向上を目指した施設情報の見える化や柔軟な運営

市が保有する施設の情報を集約して公開することで、市民が気軽にわかりやすく施設を利用することができるようにする。また、一定の用途しか連想されないような施設名称を、様々な使い方が期待できる名称に変更する。そして、現状の使われ方の状況や情報を踏まえて、施設の運営を柔軟に行う。

公共施設に関する提言（ワーキングのまとめ）-4

4　全施設を計画的、総合的に管理する市長直属の強力な推進体制の整備

部署の壁を越えて施設を管理するための推進体制を整備し、全施設の整備方針について、更新、維持管理・長寿命化、他施設での代替えなど、積極的な情報公開をし、市民参加の機会も持ちながら、公共施設の総合的な管理運営を計画する。必要なものは建て替えるが、他の施設は良い状態で長く使ったり、代替可能な場合は民間や大学、他自治体の施設をうまく利用したりすることで、自治体の負担するコストを最小限に抑える（選択と集中）。

Chapter 3

市役所等公共施設整備
ワークショップへの期待

長久手市民にとって市役所はどうあるべきなのか

市民発意の公共サービスを支える市役所へ

ワークショップではそのあり方について議論していきます

3 長久手市 未来まちづくりビジョン　2015

人・場・時をつなぎ　夢をはぐくむ長久手

ながくてびと

長久手人こそ私たちの誇り　気長に手をかけ　みんなで未来を拓く

歩いて暮らせる

市民が気軽に集まる

手間をかけコミュニティをつくっていく

全市民レベルのイベント

まちに誇りをもつ

歴史や文化に触れる

自ら行動を起こす

教育研究機関を使いこなす

文化の家などの拠点を使いこなす

公共施設はビジョンを実現する「場」の一翼を担う。ただし、長久手には他にも場（資源）はたくさんある

3 市役所等整備ワークショップへの期待

○ 長久手市の状況に応じた計画立案への期待

今後整備される施設を含む全公共施設の中での位置付け
市役所が果たすべきサービスや機能のあり方
場所に根付いた地域や空間の価値を見極める

○ 行政の枠にとらわれない柔軟な発想を

市民のニーズの実態に根付いた公共サービスのあり方
地域住民や民間企業ならではの楽しい発想を
“市民ができることは市民がやる”なら市役所はどうあるべき

○ これからの公共施設整備のルールづくりへ

市民、行政、民間等多くのステークホルダーにとって
利便性、経済性、安全性など多様な視点からの検討
市民参加による整備の方法を

ワークショップ 話し合いのルール

1．人の意見は最後までよく聞く

2．思いついたことは言ってみる

3．否定しない

4．全員が意見を出す

5．その場を楽しむ